

## 平成 28 年度 第 2 回江南区教育ミーティング 会議録概要

開催日時	平成 29 年 1 月 26 日(木) 午後 1 時 30 分から午後 2 時 50 分まで
会 場	江南区役所 3 階 302 会議室
出席者	江南区自治協議会委員 12 名 教育委員:齋藤教育委員、伊藤教育委員 事務局:教育総務課長、地域教育推進課長、学校支援課課長補佐 亀田地区公民館長、亀田図書館長、江南区教育支援センター所長
議 事	1 開会 2 教育委員挨拶 3 平成 28 年度全国学力・学習状況調査新潟市の結果について(事務局説明) 4 意見交換(司会 江南区教育支援センター所長) テーマ「自治協議会提案事業について～子どもたちと地域づくりを考える」
司会	自治協議会におかれては、提案事業として子どもたちと一緒に地域の課題の洗い出しや、今後のまちづくりにつながる取り組みを多数実施しておられるので、その取り組みをご紹介いただき、意見交換して教育委員会としても今後の参考にさせていただきたい。
自治協委員	【「子ども会議プロジェクト(24～26年度)」の紹介】 子どもたちが区内の現状や課題などについて大人と一緒に考える会議として、地域に関心を持つとともに、子どもの視点からの意見をまちづくりに取り入れようという取り組み。3年間で区内5地区を一巡。26年度は横越小の授業の一環として、6年生110人が参加。横越のこんなところが好き、こんなまちになってほしいというテーマで話し合ってもらい、自治協委員は各ブロックでサポートを行った。両川では39名が公民館に集まり、子どもたちと委員と一緒に話した。 子どもたちは大人が考える以上に地域をよく見ており、グループワークを通じて考えをまとめ、地域の再発見や今後やるべきことを見つけていた。自治協としては子どもたちの意見の中で多かったものに焦点を当て、今後の自治協の実際の取り組みにつながる活動を進めていくこととした。
自治協委員	【「子どもたちの声を活かす地域“未来”プロジェクト(27年度～)」】 ・「きれいなまちづくり運動」の紹介 亀田小からの「思いやりのあるきれいなまちにしたい」という声に焦点を当て、27年度にオープンした隣接地の亀田コミュニティセンターで、プランター12個と花壇に花植えを実施した。亀田中校区の亀田中、亀田東小にも案内をし、子どもと保護者、委員合計80名が参加。地域のボランティアの方からカレーライスを作ってもらい、花植え終了後に全員で意見交換しながら会食をした。 アンケートでは好評でコミセンの周知もでき、コミセンからも喜んでいただいた。27年度はコミセンの自主事業として、自治協は共催という形で、100人を超える参加者を得て実施した。これからも子どもたちが地域で活動できることをフォローしていきたい。
自治協委員	・「大江山公園にぎわい創出事業」の紹介 丸山小児童からの「大江山公園をもっと知ってもらいたい」という意見を受け、道

路上に目立つ案内標識の設置や、利用が少ない理由等について調査をすることとし、コミ協が中心に実施している10月の「大江山縄文市」に自治協議会のブースを設けてアンケートを取るようになった。

当日は子どもたちも多く集まり、322 通アンケートを回収。いろいろな意見や状況が見えてきてそれを受けてパンフレットを作成する。子どもたちや子育て世代にも来てもらえるように現在取り組んでいる。

自治協委員

【「命を守るまち歩きプロジェクト(24～26年度)」の紹介】

子どもは地域の宝、地域の宝は地域で守り育てるという精神で、8 校を 3 年間で実施した。自分の住んでいる地域を知ってもらうため、地盤高に着目し、建設業協会の協力で子どもたち自身で土地の標高を計測する取り組み。その後土地改良区の芦沼館を訪れ、江南区の全体像を把握し、昔の農機具の展示などを見学した。

小学生のうちは災害弱者であるが、中学生になると平日の有事の場合は即戦力になるので学校でもレスキュー訓練に取り組み 3 年間継続してきた。

教育委員会へのお願いだが、90 分の訓練講習によって認定書が交付されるので最低 90 分の訓練が必要だが、学校側が早く終わるようにと言うので、教育委員会として全教員に指示してほしいと思う。

司会

事業に参加された委員から率直なご感想などをいただきたい。

自治協委員

この事業や学校の地域学習を通じて、大人が思っている以上に子どもも地域をもっとよくしたいと考えているとわかった。それを大人が知って実現させてあげたいという事業は役に立ったと思う。

子どもたちが声を出して発信し、実現できることを感じることで新たな意欲も生まれてくると思うので良い機会だったと思う。

自治協委員

子どもは大人と違ってまっさらな目で見ている。良い取組は継続して次の代につなげていくとまた地域の中で違った形で活性化していくと思う。

教育委員

防災関連の説明の中の、90 分ルールとはどういうことだったのか。

自治協委員

法改正があり、救急の講習は90分のカリキュラムを終えると認定証が出る。それが救急救命士の資格の登竜門という形になるので義務教育の段階でそのような勉強をするのは大切。しかし学校は掃除の時間だからと、講習時間を伸ばそうとしない。教育委員会から指導をお願いしたい。

読み書きだけが教育ではなく、命あつての教育であるとの原点をもう一度考えていただきたい。災害の多い国なのだから災害に対する対策を教委としてもしっかりやってほしい。消防のレスキュー訓練を受けておけば、救急の段階に役立つと防災教育に義務付けておいた方がいいと思う。

教育委員会事務局

防災教育推進について、一昨年から各区で推進校を決めて、取り組み始めている。中学校ではジュニアレスキューも取り入れている。防災についてはどの学校でも取り組みを強化しているので、成果が江南区でも出てきていると思うが、地域と一緒に防災訓練を実施するなどのことが広まってきている。5年かけて進めることになっている。

教育委員会事務局

地域の中で、子どもたちに「生きる力」を育てていただいていることを学ぶことができた。子どもたちは、学校でこんなやり方があるという知識は身につくが、どうやっ

たら実現できるかまで持っていくのは難しい。学校を離れた場所で集まり感じたことを地域の方に訴えて、計画を立てたり、誰が何をすればよいのかを明らかにして形にしていくことに大きな価値があると思う。だからこそ自分たちのまちを理解し、愛着を持つこともできたと思う。

司会

これまで、学校に地域の方が入って応援団として活躍していただいているが、今後は子どもたちも地域に出て活躍できる場が必要になる。国では「地域学校協働活動」として進めている。たとえばまつりを一緒に作り上げていくなど。このような取り組みが広がっていけば、地域づくりにつながっていくと思う。

自治協委員

これまでの取組を通して、子どもたちに期待することや、今後こんな形で子どもたちと関わっていききたいなどのご意見があったらお聞かせください。

地域に子どもたちから出してもらい、大人の声を聞いたり、大人も子どもの声を聞くような取り組みは、自治協議会だけでなく地域全体で取り組んでいく必要がある。コミセンで花植えをやった時、校長、教頭からも来てもらった。子どもたちからお休みなのに先生も来てくれている、がんばろうという声がたくさん聞けた。

学校から自治会に出るのは難しいと思うが、地域から声を上げていけば学校からも出ていただけるようになると思う。

自治協委員

環境・教育部会では、区内にまだいろいろな地域があるので、生徒に声を出していききたいし、地域の人にも一緒に参加していただけるような形で活動していけたらよいと思う。そこに学校も加わっていただければ活動が広まっていくと思う。

2～3日前亀小コミ協の「応援隊」の会議がありPTA役員とも話した。出てくるのは女性が大半だが、お父さんにも学校として呼び掛けてPTAに出てきてほしいとの意見を出したら、賛成してくれた。

参加しないと楽しさはわからないし、子どもと一緒にいられる貴重な時期を忙しいまま過ごすのは残念。

教育委員会  
事務局

PTAの活動が地域の活動に結びついていくとも思うし、学校からも積極的に呼び掛けていただきたい。出られる範囲のところには顔を出していただくような機会を意識して作っていただきたい。

ある小学校では、「おやじの会」を結成して活躍している。お父さんは時間的なことなどで行きづらさを感じているが、おやじの会は飲み会で始まることが多く、その中で子どもたちを楽しませることを発案するとミニ運動会、祭りでの花火などいろいろな発案ができていき、PTA 行事も参加も盛んになってくることもある。

自治協委員

子ども会議をやっていた頃、自分はまだ自治協委員でなかったが、パンフを見せられてとても良い活動だと思った。

子どもたちの声を活かして自治協でも取り組むというのは江南区の素晴らしいところだと思い、自治協委員になった。生の子どもの声を聴いて、一緒に行動を起こしていくような取り組みは他の区でもやっているのか。

教育委員

西区も担当しているが、うまくいっているところは地域の特性を活かしている。

こちらの自治協議会については、素晴らしい取り組みだと思って聞いていた。地元にあるものをうまく活かしている。人と人との関係性もあり、差はあるが、地域と学校パートナーシップ事業が 10 年たち、着実につながりがいい形でできていると思う。

教育委員	<p>周りがこれだけ子どもたちを支えていることを、子どもたちが理解しているという発言はありがたい。周りの人が支えてくれたことを分かって育ち、良い形で大人になることができると思う。</p> <p>今日のあり方は参考になった。今後のミーティングを考えていく中で、地域でやっていることや課題、人につながっていきこうという角度からのご意見をお聞きでき、希望を持てるような地域の力を見せていただいた。自分の地域にも親父の会というものがあり、地域文化祭を学校の文化祭の中でブースを設けて体験活動を実施している。やってみたらよかったという声をつないでいくことで、江南区の人々の輪が広がってきているのかと思う。</p> <p>大江山公園の取り組みについても、地域の遺跡や文化に小学生が興味を持って地域と共に活動しているのは素晴らしいと思った。子ども会議プロジェクトのパンフも、未来のプロジェクト材料がたくさん入っている宝箱のような気がするし、地域の設計図の土台になると思う。子どもたちが地域の未来を自分で考える場があるというのはとても大事だと思う。地域の皆さんの働きかけで、未来の設計図を子どもたちと描いていただきたい。</p> <p>防災の取組について、学校側の時間が工面できなかったのかもしれないが、体験の中でどうしたらいいかを考える材料になる取組みだとも思った。後は、やったことを伝えていき広げていくことも大切。活動報告の作り方もユニークなので、子どもたちとやる教育活動や地域連携に役立てられると思う。</p>
亀田図書館長	<p>自治協議会の活動を、地区図書館に地域資料としてファイリングし、各区の図書館にも紹介していただけるとありがたい。</p> <p>地域の子供たちや地域の皆さんが作られたものは公共図書館でぜひ保存していきたい。その都度蓄積していくことで後の時代の子供たちが地域を見直そうとか、発見したいときに利用できるように保存していけるよう努力したい。</p>
自治協委員	<p>せっかくの素晴らしい活動だが、(横越小の)子ども会議プロジェクトは6年生が1回だけ体験し、次の年の6年生は経験していないので、次の自治協の委員もぜひ継続していただき、喜ばれる活動をしていただきたい。</p>
自治協委員	<p>子どもたちは体験をすることで学び、成長につながる。地域の人に関わることで学校だけではできない様々な体験ができることがわかっているけど、今の子どもたちは忙しくて土日のイベントに参加できないことも多い。翌年同じ取組を継続していくことでつながっていくと思う。自治協議会は3年が任期なのでこの壁を越えて続けていくのが大事。</p>
自治協委員	<p>地域にも告知はするが、回覧版はスルーしがちで他に方法があるかが悩み。学校に関わっていない人は関係ないと見ないことが多く、自分の事としてとらえてもらえないのが残念。逆にお便りが多すぎて集約できないのかもしれないが。(学校、CD日より、コミ協たよりなど)</p>
教育委員	<p>新聞の記事で見たが医療(がん)について取り組んだ学校がある。命を守ることが第一だという話もあったが、医療、医学などの面も小・中学校の学校教育で幅広く取り上げていただきたい。</p> <p>医食同源ということで紹介するが、西区の小針小で「KOBA弁」という食育の取り組みをしており、地元の農産物を活かしたお弁当を作って販売した。JAや管理栄養士のアドバイスを受けながら作り上げていくなど子どもたちも健康にかかわる取り組みができるという例で紹介した。</p>

ドリームプロジェクトの一環であり、資料をまとめるので江南区でも参考にさせていただきたいと思う。食を通じて命を考えた取り組みになっている。

議 事

5 江南区自治協議会 環境・教育部会長挨拶

6 閉会